

⑦【単年度】 胡屋・中央地区交通拠点における賑わい創出の社会実験（沖縄市）

1. 実験概要

- ・ 胡屋・中央地区の結節の不便性を解消し、また、道路空間を活用して賑わいを創出する。

2. 実験内容、実験結果

①胡屋地区周辺における賑わいの創出

- ⇒18時～19時の時間帯の歩行者量が多く、11月のイベント時で599人、12月のイベントで288人とそれぞれ通常時の4.8倍と2.3倍、歩行者量が増加している。
- ⇒アリーナ等施設利用者の胡屋地区周遊割合は、4%と胡屋地区でイベントがない場合での1.7%に比べ、胡屋地区への立ち寄り割合が増加している。
- ⇒胡屋地区来訪者の滞在時間は、56分となり、平常時49分に比べ、1.14倍、滞在時間が増加している。
- ⇒胡屋地区来訪者の満足度は、11月のイベント時で56.2%、12月のイベント時で53.2%、夜間バス利用者で62.6%となり、目標値の70%より下回っている。

②イベント開催に合わせたバスの運行

- ⇒イベント来場者のバス利用者割合は、11月イベント時3.5%、12月イベント時で8.8%であり、12月時は目標値を2.8ポイント上回っている。
- ⇒自動車から公共交通への転換では、自動車の分担率は11月イベント時80.7%、12月イベント時で55.8%であった。
- ⇒シャトルバスの満足度は、93.6%と目標値70%を23.6ポイント上回っている。

③シェアサイクルポートの設置

- ⇒シェアサイクル利用者の満足度は、70%と目標値と同数値である。



3. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 社会実験の実施に当たっては、道路空間を活用するにあたり道路管理者や警察との協議の他、通り会や自治会との調整を必要とし、関係者調整に時間を要する。特に通り会などでは、必ずしも歩行者空間を活用することを良とは思っておらず、理由として通行止めにするることによる普段の利用者の通行の妨げなどがあげられる。
- ・ 道路空間の活用については地域との合意形成に向けて、関係性の構築を図る必要がある。

⑦【単年度】 胡屋・中央地区交通拠点における賑わい創出の社会実験（沖縄市）

4. 意見と対応

有識者等からの意見	意見への対応
公共交通単体ではなく、乗継や複数の組み合わせによる小回りの利く交通手段を活用するメリットが生きるように引き続き取り組んでいただきたい。	次年度以降も継続的に進められるよう検討する。
目的地まで交通手段を決める段階でどれだけの情報を知ってもらうか重要である。長期的に継続することは効果的である。	事業実施期間について議論する。
商店街にいる人が待ちづらくならないようなバス待ち空間とバス停までの動線計画のデザインは重要。	賑わい空間に必要なバス待ち空間要素について議論する。

5. 本格実施に向けた課題と対応方針

本格実施に向けた課題	課題への対応方針
イベント時の憩いの場について、満足度が低かったことから、利用者の多くが憩いの場に求めている快適性や安心感の向上が課題。	・道路空間の活用方法について次年度検討するウォーカブル検討業務において議論する。
夜間バス利用者について、夜間バスの運行実施時の周辺でのイベント実施の有無や運行曜日により利用者数に違いがあり、周知期間と方法が課題。	・利用率としては低いものの、利用者からの評価（満足度）は高かったことから一定のニーズはあるものと推測される。 ・今回の結果をふまえ、次年度以降も実証実験の実施に向けて取り組む。
シェアサイクルポートについて、設置個所によって利用者数に違いがあることから周知期間と方法が課題。	・周知期間や方法が課題。 ・認知されるまで時間を要することから実証実験を継続していきたい。

6. 今後のスケジュール

令和7年度	令和8年度	令和9年度
ウォーカブル推進計画(案)の検討	ウォーカブルの具体的施策の検討	具体的施策に関する社会実験
過年度内容を踏まえた夜間バスの実証実験	継続 →	継続 →
過年度内容を踏まえたシェアサイクルの実証実験	シェアサイクル本格運用の検討	シェアサイクル本格運用